

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2020年6月新刊のご案内

経済書で担当者さま

宗教の経済学

信仰はデータで分析できるのか (仮)

レイチェル・M・マックリアリー (ハーバード大学講師)・

ロバート・J・バロー (ハーバード大学教授)[著]

田中健彦 (翻訳家)[訳] / 大垣昌夫 (慶應義塾大学経済学教授)[解説]

本体予価 2,700円 四六判並製 / 256頁 ISBN 978-4-7664-2683-0 C3033

👉 ココに注目!

- ・ 宗教が経済学によってより深く理解できる。
- ・ 宗教が社会に与える影響を多角的に分析する。
- ・ マクロ経済学の大家バローによる本邦初の「宗教の経済学」入門書。

M・ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』に代表される宗教と経済の関係の研究は、データ分析と現代経済学によってバージョンアップされた。キリスト教・イスラム教・仏教・過激宗派など世界中の宗教現象が経済と社会に与える効果を分析する。宗教の問題に関係する多くの分野に示唆を与える1冊。

📖 類書 マックス・ウェーバー『世界宗教の経済倫理』(日経 BP)

営業部からのおすすめポイント

「宗教」と「経済学」の組み合わせは、「互いに相容れない」という印象を持たれると思いますが、上記の通り「宗教の経済学」分野の研究は連綿と続いていました。しかし、各宗教の事象を取り上げたり分析する書籍はありますが、宗教が社会に与える影響を包括的にまとめた書籍は少なく、特に日本語で読めるものはほとんどありません。今後、この分野の定番書の位置を占める書籍として、ぜひご期待ください！ (乙子)

👉 本書に登場する事例、注文短冊は裏面に掲載! ぜひご確認ください!

〈本書がとりあげる主張や議論の主な事例〉

- ・なぜ宗教は経済学によって分析できるのか？
- ・なぜ宗教は近代社会において衰えたのか？
- ・資本主義はキリスト教のプロテスタント信者がいたから発達したのか？
- ・なぜ宗教は一国で支配的になるのか？
- ・信仰心があつい人が多くなるのはどういう社会か？
- ・政府が宗教に与える影響は何か？
- ・なぜハーバード大学生は無宗教なのか？
- ・なぜ過激な集団は宗教に関係しているのか？
- ・国教がある国とない国があるのなぜか？
- ・すぐれた文明を生み出したイスラム教の国は、なぜ近代化が遅れたのか？



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託		レイチェル・M・マックリアリー、ロバート・J・バロー 著／ 田中健彦 訳／大垣昌夫 解説 宗教の経済学 —信仰はデータで分析できるのか(仮) ISBN978-4-7664-2683-0 C3033	2,700 円	★★★★★ ★★

★1つで「500部」を表します